

35 『素問』・『靈樞』における

非医籍からの引用

岩 井 佑 泉

いわゆる『黄帝内经』、すなわち『素問』および『靈樞』における「他医書からの引用」の問題は龍伯堅『黄帝内经概論』（一九八〇年）、馬継興『中医文献学』（一九九〇年）などにおいて論ぜられ、わが国でも松木きか氏の研究「『黄帝内经』所引の古医書について」（『集刊東洋学』六九号、一九九三年）においてかなり整理した報告が見られる。

演者はこれを補足する意味で、「非医籍からの引用」という問題を検討したい。『素問』・『靈樞』に引用された他医書のほとんどが、すでに存在を確認されない佚書であるのにもかかわらず、多くの書名が記述されていることに前記の諸研究は導かれていたが、これに対して非医籍からの引用形式は、『兵法』（『靈樞』逆順）を唯一の例外として書名が明示されず、「経曰」や「論言」のような書名

の代称となる「経」・「論」等の語も含まない、「譬猶」・「余聞」等の目立たない引語を持つか、あるいはまったく引語を持たない暗用に限られる。そのためこの問題を扱った研究は少ないが、多紀元簡は『医賸』巻上・『内经』之文似諸書』の中で十一条の非医籍からの引用を示唆している。

『素問』上古天真論「故美其食、任其服、樂其俗」（老子）八十一章

同・四氣調神大論「譬猶渴而穿井、闕而鑄錐」（晏子春秋）雜上

『靈樞』營衛生會篇「余聞、上焦…下焦如瀆」（『白虎通』情性）

同・本神「故生之來、謂之精、…（以下七十五字）」（『子華子』）

等である。以下書名のみを列挙すると、

『漢書』鮑宣伝、『呂氏春秋』、『春秋繁露』、『春秋左氏伝』、『孫子』勢篇、『列子』、枚乘『七発』、『淮南子』

等である。そこでこれにしろ、漢以前の非医籍を調査した結果、『素問』・『靈樞』への引用と見られる次のよう

な字句を見出した。

①『素問』上古天真論「生而神靈、弱而能言、幼而徇齊、長而敦敏」(『史記』五帝本紀)

②同・四氣調神大論「生而勿殺、予而勿奪」(『六韜』國務)

③同・六節藏象論「如環無端」(『孫子』勢篇)

④同・移精變氣論「得神者昌、失神者亡」(『六韜』奇兵、馬王堆三号墓出土『十六經』)

⑤『靈樞』九針十二原「若存若亡」(『老子』四十一章)

⑥同・本輸「肺合大腸、大腸者傳道之府：(以下五十六字)」

(『河圖』佚文)

⑦同・脈度「終而復始」(『孫子』勢篇)

⑧同・師伝「入國問俗、入家問諱」(『礼記』曲礼)

⑨同・逆順「兵法」曰：無擊堂堂之陣」(『孫子』争篇)

⑩同・賊風「視之不見、聽之不聞」(『老子』十四章、『易乾鑿度』)

このようにして『素問』・『靈樞』への引用が見られた書名を整理してみると、(1)五行家の影響が強く見られる書(『呂氏春秋』、『春秋繁露』、『白虎通』、『河圖』等)、(2)兵家の書(『孫子』、『六韜』)、(3)道家の書(『老子』、『列子』)

等に分類される。

医学的内容を持つ三焦が『白虎通』に、藏府の相合が『河圖』に見られることは、『易通卦驗』に手足諸脈の盛虚の病症の記述が見られることも合致し、(1)に属するいわゆる「緯書」類が『素問』・『靈樞』の成立と何等かの関係を持つ可能性を否定できない。